



# かっせんはら100

ほんち



＜宮城病院基本理念＞ 「良い医療を安全に心を込めて、地域とともに」

## 着任のご挨拶



この4月より副院長として宮城病院に着任いたしました、  
脳神経内科の割田 仁(わりた ひとし)と申します。

前職では20年余の間、東北大学大学院の教員として、また脳神経内科の医師として教育・研究・診療に従事してまいりました。86年もの歴史ある宮城病院で勤務できることを誇らしく感じるとともに、身の引き締まる思いです。

脳神経内科はもっとも大切な臓器である「脳」を中心に、脊髄や末梢神経、さらに筋肉と全身をみる診療科です。対象となる病気は600種類以上、世界に10億人もの患者さんがいるといわれます。その中でも私自身は、これまで治療法がない、治りにくい病気を中心に診療経験を積んでまいりました。この30年、治らなかった病気も着実に治るようになってきたことを実感します。それでもまだ何年、何十年とつき合う病気が多くあります。そのような病気では、地域の医療者のみならず支援者や介護福祉施設、そして行政機関とも連携することがとても大切です。

したがいまして当院でも、患者さん・ご家族が安心できる体制づくりに努め、この地域医療連携室とともに地域の皆さまに寄りそった医療の提供をめざす所存です。

とくに慢性疾患の医療、療養支援に注力したいと考えています。そのためにも、人口減少と高齢化の進むこの地域において、私たちの病院がどのように貢献できるか十分話し合いながら進める必要があります。私自身も最新の医療を学び活かせるよう日々研鑽を積んでまいります。

本年度より当院の基本理念に「**地域とともに**」が加わりました。この地に欠かせない、しかし持続可能な病院として、社会情勢に合わせた変化と成長を遂げてまいりたいと思います。地域医療連携室を通じて皆さまとともに、病(やまい)があっても穏やかに暮らせる地域を築いていけるよう、どうぞ今後ともご支援お願い申し上げます。

# 新任医師赴任のご挨拶



## ＜＜内科医師＞＞ 齋藤 拓也

この度、ご縁があって当院で勤務させて頂くこととなりました、齋藤拓也と申します。私はこれまで東北大学病院にて、主に呼吸器内科の診療や基礎研究に従事して参りました。また、宮城県内の地域の医療機関でも診療経験を積み、地域医療の重要性を実感してきました。これまでの経験や専門性を活かしつつ、宮城病院では患者様一人ひとりに寄り添った丁寧な診療を心がけていきたいと考えております。呼吸器疾患は日常生活に密接に関わる症状が多く、生活の質の向上を目指したサポートにも力を注いでいく所存です。4ヶ月という短い期間ではございますが、地域医療の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。皆様のご指導とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ＜＜内科医師＞＞ 木口屋 啓太

はじめまして。この度、4月より宮城病院に赴任してまいりました木口屋啓太と申します。東北大学を卒業後、宮城県内各地の拠点病院を転属しながら初期研修を修了し、昨年は内科・呼吸器内科専攻医としてみやぎ県南中核病院で勤務しておりました。前職でも実感したことで、県南・沿岸地域は呼吸器専門診療を受けられる医療機関が少なく、慢性・急性を問わず呼吸器疾患の患者さんは受診先に困っている方が数多くいらっしゃいます。内科・呼吸器内科診療を通じて山元町、亶理郡一帯の地域医療に貢献できれば幸いです。まだまだ内科医としては駆け出しで経験不足の面もあると思いますが、その分フットワーク軽く診療にあたりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



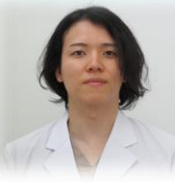
## ＜＜脳神経内科医師＞＞張替 宗介

当院に2024年10月より勤務させていただいております、脳神経内科医の張替宗介と申します。医師としては11年目で、大崎市民病院、仙台医療センター、東北大学病院などで勤務させていただき、2024年に東北大学大学院 医学系研究科を卒業し、当院で勤務を開始いたしました。ヒトの脳の機能を様々な技術を用いて観察し医学的に応用する脳機能解析学に興味があり、大学院ではそちらを専門として学位を取得しております。今後も研究活動を継続しながら臨床業務に携わりたいと考えております。宮城病院に勤務させていただいて半年が経過し、入院ケアやリハビリテーション業務、外来での多様な神経疾患患者さんの精査、診断、説明、治療など、想像以上の業務の多様性に驚いていますが、先輩の先生方、コメディカルの方々の丁寧なアドバイスに助けていただきながら、とても充実した日々を過ごさせていただいております。また、これまでの診療経験や大学院で学んだ知識を患者さんのお役にたつ形で提供できることに、改めて医師としてやりがいと喜びを感じています。まだまだ医師としては道の途上ではありますが、自分のできることでこの地域の皆様のお役に立てるよう頑張っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## ＜＜脳神経内科医師＞＞宮本 達夫

2025年4月より着任いたしました。脳神経内科の宮本達夫と申します。2019年に東北大学を卒業後、東北大学病院で初期研修を修了し東北大学脳神経内科に入局しました。その後は東北大学病院、仙台市立病院で勤務し、2024年度上半期には宮城病院でも勤務しておりました。下半期は半年間仙台医療センターで勤務し、今年度再び宮城病院で勤務することとなりました。現在、入院患者さんの診療など病棟業務と、火曜日に新患、月曜日に再診、金曜日に急患の外来業務を行っております。当院は脳神経内科のある病院としては宮城最南端である立地上、宮城県南～福島県から患者さんがいらっしゃいます。取り扱う疾患も急性期から慢性期まで様々ですが、患者さんひとりひとりに応じてできる限り適切な診療を行えるよう尽力いたします。また、科の特性としてパーキンソン病や認知症など社会的支援が必要な疾患を扱うことが多いため、診断後症状に応じて支援を行えるよう地域とスムーズに連携していけるようにも心掛けております。地域医療に貢献できるよう頑張っていきますので、みなさまどうぞよろしくお願いいたします。



# 地域医療連携室新スタッフ紹介

## ＜地域医療連携室副室長（経営企画室長） 渡邊 貴将＞



4月から福島病院より赴任いたしました渡邊貴将と申します。

これまで宮城県内での勤務経験はありましたが、

宮城病院での勤務は初めてとなります。

初めての勤務地で緊張の日々ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

宮城病院は神経難病医療や重症心身障害児(者)療育の外に、訪問看護ステーションの設置、地域包括支援センターの受託を行い、地域の皆様への貢献を目指しております。また、MRガイド下集束超音波治療の実施にも力を入れております。

昨今の医療を取り巻く環境は、高齢化率の上昇、医療従事者の不足など明るくない話題も多くありますが、これらの状況を乗り越えるためには、病院や介護施設等がそれぞれの機能を十分に活かしつつ一層の連携を図ることが必要だと思えます。当院の理念は「良い医療を安全に心を込めて、地域とともに」となっております。この理念の下、医療機関や介護福祉施設の皆様との連携を更に深め、厳しい環境を共に乗り越えていくことができますよう微力ながら貢献してまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## ＜地域医療連携係長 佐々 知恵＞



こんにちは、4月より地域医療連携室係長として勤務しております  
看護師長の佐々知恵です。どうぞよろしくお願いいたします。

3年前に看護師長として宮城病院へ戻り、

長年育てていただいた御恩返しができることを嬉しく思いながら勤務させていただいております。

地域医療連携室は新メンバー2名が増え、看護師4名、医療ソーシャルワーカー4名、事務員1名の新体制となりました。地域医療連携室の役割である「患者さんが医療や介護を切れ目なく受けることができるよう、当院と地域をつなぐこと」と「患者さん・家族の心配事や不安を軽減することができるようお手伝いすること」について業務の遂行ができるよう学んでいきたいと思えます。

当院基本理念が「良い医療を安全に心を込めて」から、今年度は「地域とともに」が追加となりました。今後も益々地域の方々との交流を持ちながら貢献できるように取り組んでまいります。

## ＜医療社会事業専門員 阿部 清継＞



はじめまして。

4月より宮城病院に入職し地域医療連携室に配属されました阿部清継と申します。

3月までは障害福祉の分野で、主に地域にお住まいの精神、知的障害を抱えた

65歳以下の方を対象とした相談支援業務に従事しておりました。

並行して関わっていた地域福祉の取り組みにて、その一つである介護・高齢者福祉分野の各関係機関との連携の際に勉強不足を痛感し、障害と高齢分野ともに精通した支援者になりたいと思ったことが今回入職することになったきっかけです。今後は今までの経験を活かし、関わってきた各関係機関との関係を大切にしながら、さらに新たな経験を積み、新たなネットワークを築き、より広い視野を持ちながら日々の業務に当たってまいります。そして、患者様、ご家族様、各関係機関の皆様などから気軽に相談して頂けるような存在になりたいと思えます。元々は何か人に役立つ仕事をしたいと思い、会社員から福祉職に転身した経緯もあります。会社員の時に経験したことも今後何かしらの場面で役に立つかもしれませんので、この感覚も大事にしていきたいです。日頃から心がけていることは心身ともにいつも同じコンディションで仕事に臨むことです。どうぞよろしくお願いいたします。

## 第15回 医療と看護・介護の多職種連携研修を開催しました！

2月12日(火)皮膚排泄ケア看護認定看護師の栗原幸江さんを講師に迎え「創傷処置(褥瘡含む)の実際と最近の傾向について」実技を交えながらの研修を開催しました。前回研修の時に動画配信(You tube)は続けてほしいという声があり、今回も動画配信を継続としました。

今回、集合研修に参加した(17名)方から、「創部洗浄の実技の中で実際の力の入れ具合や声のかけ方を学べた」「職種によってのケアの経験に差があるが、知識として大切と感じた」「バイオフィルムはいいものだとは勘違いしていた」など様々な意見をいただきました。更には、当院認定看護師(認知症・摂食嚥下)にも加わってもらい、「日頃の介護場面での疑問点などアドバイスをもらうことができて良かった」という意見もいただきました。今後も当院認定看護師と地域の皆様との情報交換ができる場を増やしていき、地域の皆様のお役に立てるような研修会を企画していきたいと思っております。ぜひ宮城病院に脚を運んでみていただきたいと思っております。



地域医療連携室 看護師 菊地操子

次回も、みなさんのご参加お待ちしております！

### 地域医療連携室の紹介

令和7年度、新たなメンバーを迎え活動していきます。  
今年度から、病院の基本理念に「地域とともに」が加わりました。  
より一層、地域の方々、関係機関の皆様と連携を図りながら、地域医療に携わって  
いきたいと考えております。  
本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

前列:(右から)

地域医療連携係長 佐々 知恵  
地域医療連係室副室長 渡邊 貴将  
地域医療連携室長 安藤 肇史  
医療相談係長 板橋 彩子  
相談員 木村 麻美

後列:(右から)

看護師 菊地 操子  
事務員 宮城 芳恵  
副看護師長 作間 智美  
看護師 永沼 優  
相談員 阿部 清継、川村 健太



～編集後記～

6月に入り、いよいよ梅雨の時期になりました。  
最近では寒暖の差が大きいように感じますが、体調など崩したり  
していないでしょうか。  
さて、今回は、新任医師、新スタッフの紹介を中心にさせていただきました。今後も、皆様と顔の見える関係を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。  
次回の発行もお楽しみに(^ ^)/

(文責:作間・木村)

〒989-2202

亘理郡山元町高瀬字合戦原100番地  
TEL (0223) 37-1131 (代表)

<http://miyagi.hosp.go.jp/>

【発行・編集】

独立行政法人国立病院機構宮城病院  
地域医療連携室

